



企画名称	乳がんを一人に知らせよう計画
団体の名称	長尾ゼミ内「スマイルプレスト」
代表者氏名	鳥海 由加里
学部学科名等	商学部国際ビジネス学科 4年

## 実施期間・日程

平成22年5月20日～平成22年11月29日

5月20日	乳がんについての勉強会	9月9日	パネリストリハーサル
5月25日	企画構成、情宣方法会議	9月16日	シンポジウム宣伝活動
6月3日	プレゼン準備開始～		シンポジウムリハーサル
6月24日	大野靖之さんとの交流会	9月21日	他団体との合同勉強会
7月17日	「スマイルプレスト」活動報告	9月23日	シンポジウムリハーサル
7月29日	意識の共有会、全体総企画会議	9月27日	全体シンポジウム最終確認
8月1日	合宿勉強会	9月28日	シンポジウム当日
8月5日～	シンポジウム準備開始～	10月2日	スマイルウォーク2010に参加
8月15日	ピンクリボンバッジ発注	10月4日	紅陵祭準備開始～
8月20日	ポスター入稿	10月15日	紅陵祭・活動状況報告展示
8月26日	大野靖之さんと事前打ち合わせ		・「スマイルプレスト」模擬店 白い焼きを販売
8月28日	児玉ひとみ先生と事前打ち合わせ		・「おり姫バンド」スマイルプレストライブ
9月1日	他大学へポスター設置周り	11月29日	社会人基礎力育成グランプリ 関東地区大会出場
9月3日	町内会の掲示板にポスター設置周り～ ゼミ紹介冊子入稿		

## 実施内容

拓殖大学生一人に乳がんについて知らせたいという目標を持ちました。私達の今年度の活動は大きく分けて「勉強会」「シンポジウム」「紅陵祭参加」です。

「勉強会」では、全員の乳がん知識を高めるためにゼミ生内でプレゼンテーションを定期的に行いました。その後はゼミ外への発信を掲げ、まだ私達の乳がん啓発活動を知らないゼミの先輩方、跡見学園女子大学、また、子宮頸がん啓発活動をしている団体リボンムーブメントとも合同の勉強会を行いました。

「シンポジウム」は企画構成を始めた5月から、当日の9月28日まで長期間かけて取り組んだイベントです。パネリストとしてシンガーソングライターの太野靖之さん、東京女子医科大学病院内分泌外科医の児玉ひとみ先生に参加していただき、各視点から見た乳がんについてお話をいただきました。そして最後は、太野靖之さんによるライブを行いました。より多くの集客を試みるため、情宣方法の一つとしてポスター作成しました。他大学に連絡を取り、直接大学へ訪問しポスター

の掲示を依頼しました。地域の方には、町内会の掲示板や近隣のお店に60枚以上も貼らせていただく事ができました。拓大生には、学内のポスター宣伝の他にも各ゼミナールの先生方に宣伝をして、ゼミ生自身も少人数の授業の際は、積極的に学生に参加を促しました。

シンポジウムの後は、「スマイルウォーク」にゼミ生13名が参加しました。スマイルウォークとは、朝日新聞社主催のピンクリボン運動(乳がん啓発活動)のイベントです。「検診に行くまでがスマイルウォーク！」を合言葉に都内を歩いて検診を呼びかけます。「紅陵祭」では、活動状況報告展示の他にスマイルプレストとして白い焼きを販売しました。ピンク色の装飾を施し優しい印象を与え、私達の活動内容を紹介しました。また、売上金の一部を、乳がん冊子を提供してくれた「乳房健康研究会」に寄付しました。その他に、ゼミ内で結成された「おり姫バンド」による、スマイルプレストライブを行いました。“笑って楽しく生きよう”をテーマに自身で作ったオリジナルの歌などを披露しました。

## 成果

シンポジウムを行った事によって、多くの方に乳がんについて知ってもらう事が出来ました。病気を知ってもらえた事で自身も罹る病気と捉え、身近な話題として話せるようになりました。さらに、半数以上の参加者が男子学生という事で、女性だけの問題ではなく男性も関係ある病気なのだということを知ることが出来ました。学内では、配布したピンクリボンバッジを付けている学生を見かけ、少しずつではありますが、

着実に意識を向けられているのではないかと感じました。学外では、スマイルウォークや社会人基礎力育成グランプリなどに参加して私達が活動を行っている事を知ってもらう事ができました。私達の活躍の場を広げる事が乳がんについて知ってもらうきっかけになればと思っています。

## 反省点・感想及び意見、今後の計画

反省点としては、早い段階から日程スケジュールを立てていきましたが、準備に甘さを感じる点もありました。何日から開始ではなく、何日までに終わらせるというスケジュール作りを心がければ良かったと思っています。また、33名と人数も多い事から情報共有の時間がより必要であったと感じました。組織図をしっかりと担当を明確にするのが私達の今後の課題です。内容に関しては、シンポジウムに関してアンケートをいただいた所、テーマである「乳がん早期発見の重要性～今、若者は何をすべきか～」とは少し方向性がずれてしまったのではないかと声をいただきました。“若者は何をすべきか”に焦点を当て、学生パネリストの意見や観客の学生

も交えたシンポジウムを行えたらより良いものになったと思います。

活動をする前と比べ、乳がんについて話しをするのはやはり少し抵抗があるという気持ちもありましたが、活動してからは、以前よりも話したい、そして何よりも多くの方に病気に知ってもらいたいという思いが強くなりました。嬉しかった事もあります。シンポジウムを終えて実際に自身のブログや口頭でシンポジウムに参加したと話を下さる方を見かける事が出来ました。このように情報を発信して下さる事が私達の目標である「一人に知らせよう計画」に繋がっていくものなので、これからも乳がんについての関心の輪を



広げられたらと思います。

今回、この活動を通じて多くの方々と知り合う事が出来ました。私達は今後も、勉強会、スマイルウォーク参加など継続的に活動を行っていきます。勉強会では、同じく乳がんの啓発活動をしている団体と合同で勉強をしたり、他大学への

勉強訪問をしたりと規模を大きく行えたらと考えています。

可能であれば、大野靖之さん、児玉ひとみ先生と共に再度、シンポジウムを行いたいと考えています。また、学生健康保険委員会と協力して乳がん検診についての冊子作りや移動検診車を学校に呼びたいと考えています。

支出報告書

支出総額	200,000円
給付額	200,000円

[内訳]

品名	単価	個数	小計
ピンクリボンバッジ	¥ 210	150個	¥ 32,000 (送料込)
乳がん冊子			¥ 0
ゼミ冊子		300部	¥ 14,400
ポスター	¥ 60	100枚	¥ 7,565 (送料込)
出演料	¥ 30,000	2人	¥ 60,000
スマイルウォーク 参加費	¥ 1,000	13人	¥ 13,650 (手数料込)
白い鯛焼き材料		480個	¥ 29,610 (税込)
あめ代			¥ 4,122
交通費			¥ 2,450
文具代			¥ 1,066
飲み物代			¥ 2,679
名札代			¥ 4,515
テープ代			¥ 1,860
印刷費			¥ 3,646
包装紙代			¥ 5,533
花束代	¥ 3,000	2束	¥ 6,300 (税込)
雑費			¥ 10,604
			合計 ¥ 200,000

乳がんを1万人に知らせよう計画(紅陵祭展示発表)

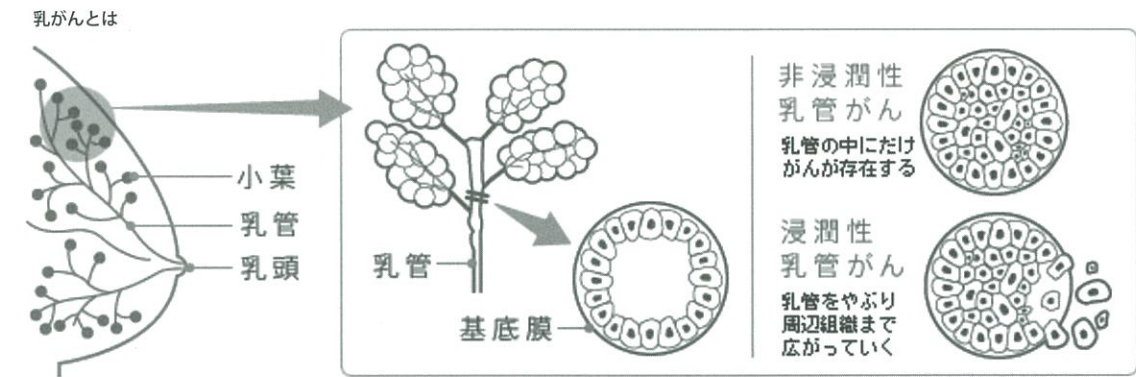
目的

私達は、ゼミ担当教授である長尾素子先生が乳がん患者であった事を知りました。乳がんが比較的若い年代で発症する事、日本人女性の18人に1人が罹る身近な病気である事、そのような事実をほとんどの若い人たちが知らない事に驚きました。

それ以来、自分達に何が出来るのだろうかと考え、勉強会を継続的に開催しています。そして、私達が今まで学んでき

たコミュニケーション学を活かし、若い学生たちが、まずは、乳がんについて知る事、意識を持つ事が大切だと感じました。そして、意識を持った学生が新たに家族や友達などに伝える事によって乳がんについての関心の輪を広げる事が出来ます。結果として、乳がん早期発見、自己検診者数の増加に繋がる事を期待しています。

乳がんについて

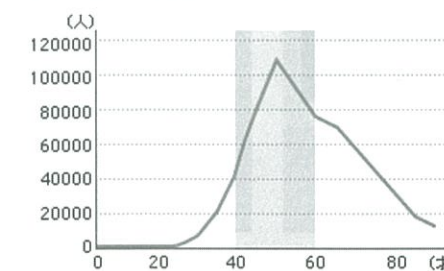


乳房のなかにある乳腺は、母乳をつくる小葉と母乳を乳首まで運ぶ乳管に分かれています。これらの組織に発生する腫瘍のうち、悪性のものが乳がんです。がん細胞が小葉や乳管内にとどまっているがんを「非浸潤性乳管がん」、外に出て周囲に広がったがんを「浸潤性乳管がん」と呼びます。乳がんはゆっくり進行するがんですが、放置しておけば乳腺の外までがん細胞が増殖し、血液やリンパ管を通して全身に広がっていきます。

乳がん患者は年々増加傾向にあります。現在では日本人女性の18人に1人が罹る病気となり、40代が最も発症しやすい

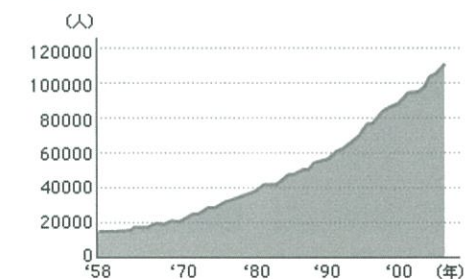
年代です。しかし20代後半からがんが出来る場合もあり、若いうちから乳がんに対して意識を持つておくことが必要となります。もともと患者が多かった欧米では国民の多くが乳がんに対しての意識が高いため、定期的な検診を会社の健康診断に取り入れるなど社会での対策ができています。それに対し、日本では検診を受ける人が少なく、手遅れになってからの発見が多いのが現状です。若いうちから知識をつけることにより、将来好発年齢になった時に、早く発見出来るかも知れません。さらに、私達の母親世代が最も発症しやすい年代のため、私達が乳がんのことを知る事がとても大切です。

年齢別乳がん、罹患数(1975年～2002年)



出典：国立がん情報センターがん対策情報センター

死亡者数推移

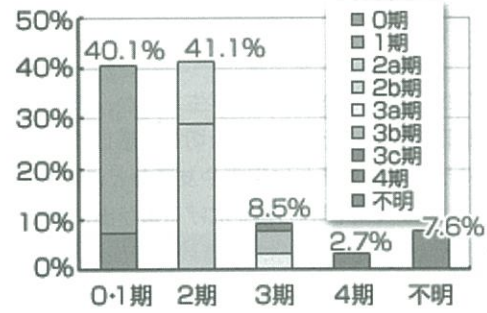


出典：国立がん情報センターがん対策情報センター

日本の死亡率は諸外国と比べて低い数字ですが、年々増加傾向にあります。一方、罹患率の高い欧米は死亡率が着実に減少しています。その原因として、欧米の検診率が70%～80%に対し、日本は5.6%しか達していないことが原因と考えられます。



乳がんの病期ごとの割合<日本乳癌学会「全国乳癌統計」より>

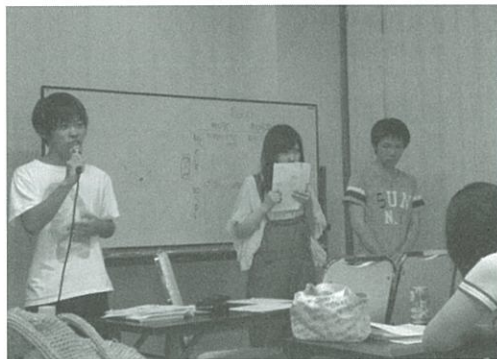


日本乳癌学会は、2004年度の乳がん、約15,000例を集計した情報を公開しています。それによると、乳がんの診断を受けた時点での病期ごとの割合は、0～1期の早期が約40%、2期が約41%、3期が約9%、4期が約3%となっています。早期乳がんのうちに治療を始めれば9割以上の人が治りますが、3期、4期になってからでは手遅れになることも少なくありません。

毎年約4万人が新たに乳がんにかかり、約1万人が亡くなっていますが、すべてが早期のうちに発見されていれば乳がん死は約1割の4,000人にまで減らせるはずで、乳がんの早期発見のためには、定期的な検診と自己検診のどちらも重要です。

活動内容

1. 勉強会、交流会



乳がんについて自身の知識を高める為、勉強会を行いました。病気の現状や罹りやすい年代などについて調べ発表しました。



アーティストの大野靖之さんを招き、交流会を開きました。



ゼミ紹介や心理ゲームを行いました。



最後にはゼミ生だけに歌を披露して下さいました。

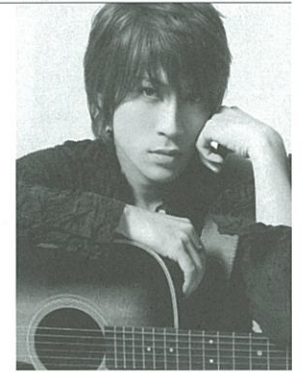
今回、お二人には「スマイルブレスト」で企画したシンポジウムに、パネリストとして参加していただきました。

講師紹介



大野靖之氏

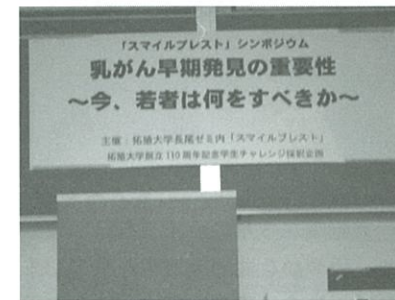
千葉県出身。1982年4月19日生まれ。シンガーソングライターを目指し、高校生の時から路上ライブを始めます。18歳の時、母親を乳がんて亡くされました。ストレートに心を揺さぶる歌声、人間本来の不変のテーマを力強く、繊細に表現した楽曲は既に約400曲以上を数えます。2008年7月6日、今までの学校ライブ活動の功績が評価され、青年版国民栄誉賞グランプリ・内閣総理大臣奨励賞を受賞されました。



児玉ひとみ氏

東京女子医科大学付属病院内分泌外科および狭山病院乳腺内分泌外科にて乳がんの専門医として活躍されています。乳がんの啓発活動にも積極的に関わっていらっしゃいます。

2. シンポジウム開催



2010年9月28日(火) 16:05～17:35  
場所:文京キャンパス C501教室



当日は約120名の方が参加して下さいました。

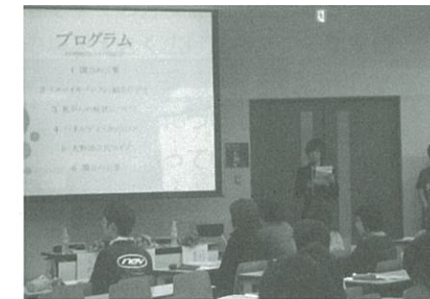


会場には病気について知ってもらおうと展示物を制作しました。

①開会の言葉



②「スマイルブレスト」紹介ビデオ



③乳がんの症状について



東京女子医科大学病院内分泌外科 児玉ひとみ氏



④ パネルディスカッション



<司会>  
平下佳奈(商学部3年)

<パネリスト>  
村上和香奈(商学部3年) 「女子学生から見た乳がん」  
初芝辰彦(商学部3年) 「男子学生から見た乳がん」  
大野靖之氏(シンガーソングライター) 「家族から見た乳がん」  
長尾素子氏(商学部教授) 「患者から見た乳がん」  
児玉ひとみ氏(東京女子医科大学病院内分泌外科医) 「医師から見た乳がん」

さまざまな視点から見た乳がんについてお話していただきました。病気を意識していない人達にどのように意識してもらえるか、パネリストから、アイデアが出ました



左から、平下、村上、初芝



左から、大野さん、長尾先生、児玉先生



⑤ 大野靖之氏ライブ



大野靖之さんのライブを行いました。穏やかな曲調で観客を魅了しました。生きる事の大切さ、自身の思いが歌に込められていて参加者の心に響きました。

⑥ 閉会の言葉



総司会:佐藤和紀(長尾ゼミ10期生 4年ゼミ長)

3. スマイルウォーク2010参加



スマイルウォークとは、朝日新聞社主催のピンクリボン運動(乳がん啓発活動)のイベントです。「検診に行くまでがスマイルウォーク!」を合言葉に検診を呼びかけます。今年はゼミ生13名で11kmコースに参加しました

11kmコース:

東京ミッドタウン→赤坂通り→赤坂サカス→山王日枝神社→山王坂→国会議事堂裏→霞ヶ関→桜田門→祝田橋→皇居外苑→和田倉門→丸ビル→丸の内仲通り→帝国劇場→日比谷公園→日比谷通り→東京タワー→中之橋→麻布十番→テレビ朝日/六本木ヒルズ→六本木通り→外苑東通り→東京ミッドタウン



多くの企業・団体が参加しており、同じ目標を共有することで、様々な情報が得られました。会場では乳がんのしこりがどのようなものを体験できるコーナーも設けられ、乳がんをより身近に感じることができます。また、企業や団体の方々から心強い励ましの言葉をいただき、この活動の重要性をより強く意識することができました。

4. おわりに

私達は、この活動を通じて多くの方々を知り合う事が出来ました。また、年々活動の場を大きく広げられている事を嬉しく思います。

なかなかきっかけがないと、乳がんについて知ることは少ないと思います。若い時から知識を持っていれば、自分自身はもちろん、好発年代の方に検診を促す事が出来ます。病気を自身の問題として…また、周りの大切な人のためにも“笑顔で乳がん”の事を話してみてください。

